

住民意識にもとづく那賀川の河川環境整備指針

徳島大学工学部 正員 定井 喜明
島根県土木部 ○永井 繁光

1. はじめに 近年、河川の整備を、地域整備と一体的に進め、環境的にも景観的にもよりすぐれた水辺空間の創造を図るべきであるという考えが広まってきている。そこで、建設省徳島工事事務所が、那賀川に対する流域住民の意識・要望・行動をアンケート調査したものを分析し、那賀川の河川環境整備の指針を得んとしたものである。アンケート実施年月は昭和63年12月で、調査対象地域是那賀川流域の8つの中学校区である。調査票配布人数は948で、回収人数860で、回収率は90.7%を得た。調査内容は、利用方法、那賀川のイメージ・特色、那賀川への愛着・求められる役割、および個人属性など、実に47項目に及んだ。

2. 河川環境整備内容の支配要因

住民の河川環境整備に対する要望の判別要因を析出するために、17の要因を用いて数量化理論Ⅱ類による分析を行った結果を一覧表として示したのが表-1である。この表-1からわかるように、「自然に親しむ場の整備」を要望する人には、公務員あるいは20歳未満の人が多いといえる。「スポーツ施設の整備」を要望する人には、生徒の人が多いといえる。「釣り場の整備」を要望する人は、20歳未満の人、「水に親しむ場の整備」を要望する人には、運動に利用する人、「休息や憩いの場の整備」を要望する人には、那賀川に愛着を持っていない人、休息に利用する人が多いといえる。また、「自然観察の場の整備」を要望する人には、40歳以上の人、生徒、下流左岸地域に居住している人、居住年数が10年未満の

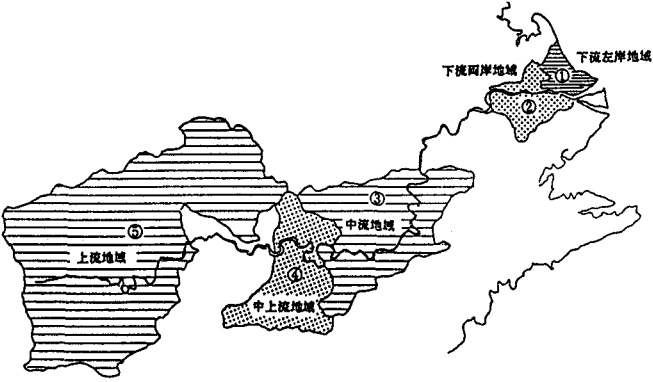


図-1 那賀川における調査対象地域

表-1 要望整備内容別の主要判別要因と特性一覧表

外的基準	判別の支配要因	有意に多いアイテム・カテゴリー	
		アイテム	カテゴリー
自然に親しむ場の整備	①職業 ②水辺の遊びやすさ	職業 水辺の遊びやすさ 那賀川への愛着 年齢 河川数までの距離 性別	公務員 遊びやすいと思う や持っている あまり持っていない 20歳未満 1~2km未満 女
スポーツ施設の整備	①職業 ②年齢 ③居住地	職業	生徒
釣り場の整備	①年齢 ②職業	年齢	20歳未満
水に親しむ場の整備	①河川数までの距離 ②《利用方法》運動 ③年齢	《利用方法》運動	する
休息や憩いの場の整備	①那賀川への愛着 ②居住地 ③職業	那賀川への愛着 《利用方法》休息	持っていない する
自然観察の場の整備	①年齢 ②職業	年齢 職業 那賀川のあるべき姿 居住地 河川数までの距離 居住年数 《利用方法》ピクニック	40歳以上 生徒 将来も同じあるさとの川 下流左岸地域 4km以上 10年未満 する
水質浄化	①居住地 ②職業 ③年齢	居住地 職業 年齢 利用割合 那賀川のあるべき姿 那賀川への愛着 河川数までの距離 《利用方法》散歩 《利用方法》休息 《利用方法》ピクニック	中上流地域 会社員、公務員、自由業 ・農林水産業・その他、主婦・無職 20歳未満 ほとんど利用しない 河川数はもつと自然に 持っている 1~2km未満 する する する
河原の清掃	①居住地 ②職業	居住地 職業 《利用方法》休息 利用割合 水辺の遊びやすさ 那賀川への愛着 《利用方法》運動	上流地域 会社員 する 月に2~3回 遊びやすいと思わない あまり持っていない する

人などが多いといえる。「水質浄化」を要望する人には、中上流地域に居住している人、20歳未満の人、那賀川をほとんど利用しない人、散歩、休息、ピクニックに利用する人などが多いといえる。「河原の清掃」を要望する人には、上流地域に居住している人、会社員、水辺を遊びやすいと思わない人、那賀川にあまり愛着を持っていない人、運動に利用する人などが多いといえる。また、判別の支配要因をみると、住民の固有属性、特に「居住地」、「年齢」、「職業」が主要支配要因であることがわかった。

3. 固有属性別の河川環境整備に対する要望内容 数量化理論Ⅱ類による分析によって、要望整備内容の主要支配要因は、住民の固有属性であることがわかった。そこで、「那賀川に求められる役割」の14の質問項目と、住民の固有属性とのクロス集計

分析(χ^2 検定)を行った結果が表-2である。この表-2からわかるように、居住地が「下流左岸地域」の人には、漁業の場として利用する、「下流両岸地域」の人には、利水、スポーツ施設の整備、「上流地域」の人には、郷土の景色として保全する、という要望の人が多いといえる。「男」の人には、釣り場の整備を要望する人が多いといえる。「20歳未満」の人には、スポーツ施設の整備、釣り場の整備などの要望が多いといえる。「自営業・農林水産業・その他」の人には、漁業の場として利用する、「主婦・無職」の人には、治水を要望する人が多いといえる。「生徒」の人には、歴史の薫る空間、釣り場の整備、休息や憩いの場の整備、スポーツ施設の整備を要望する人が多いといえる。また、居住年数が「21年以上」の人には、漁業の場として利用する、「河川敷までの距離が2~4km未満」の人には利水を要望する人が多いといえる。全体的にみると、若い人に要望が多いということが特徴としてあげられる。

4. おわりに 表-1、表-2、およびその他のクロス集計分析結果、ならびに三重クロス集計分析結果から、表-3に示したように、那賀川の地域別河川環境整備指針、および主要な対象者が結論された。

〔参考文献〕

- 1) 土木学会編：水辺の景観設計，技報堂出版，昭和63年12月
- 2) 河川環境管理財団：解説河川環境，山海堂，昭和58年8月

表-2 固有属性別の河川環境整備に対する要望内容

固有属性		有意に多いアイテム・カテゴリー	有意水準
居住地	下流左岸地域	漁業の場として利用する	0.5%
	下流両岸地域	利水 スポーツ施設の整備	0.1%以上
	上流地域	郷土の景色として保全する	0.1%以上
性別	男	釣り場の整備	0.1%以上
年齢	20歳未満	歴史の薫る空間を残す スポーツ施設の整備 釣り場の整備 休息や憩いの場の整備	0.1%以上
職業	自営業・ 農林水産業・ その他	漁業の場として利用する	0.5%
	主婦・無職	治水	0.1%以上
	生徒	歴史の薫る空間を残す 釣り場の整備 休息や憩いの場の整備	0.1%以上
		スポーツ施設の整備	0.5%
居住年数	21年以上	漁業の場として利用する	0.1%以上
河川敷までの距離	2~4km未満	利水	0.1%以上

表-3 那賀川の地域別河川環境整備指針

地域名	要望整備内容	主要な対象者
下流左岸地域	漁業の場として利用する 休息や憩いの場の整備 自然観察の場の整備	自営業・農林水産業・その他、居住年数21年以上 20歳未満、生徒、 40歳以上、生徒、河川敷までの距離4km以上 居住年数10年未満
下流両岸地域	利水 歴史の薫る空間を残す スポーツ施設の整備 釣り場の整備 河原の清掃	河川敷までの距離2~4km未満 20歳未満、生徒 20歳未満、生徒 男、20歳未満、生徒 20歳未満、生徒
中流地域	スポーツ施設の整備 釣り場の整備	20歳未満、生徒 男、20歳未満、生徒
中上流地域	歴史の薫る空間を残す 水質浄化	20歳未満、生徒 20歳未満、会社員、公務員、 自由業・農林水産業・その他、主婦・無職 河川敷までの距離1~2km未満
上流地域	郷土の景色として保全する 河原の清掃	40歳未満 会社員